

常時配信動画

下記の講演動画はイベント期間中 24時間いつでも視聴可能です

技術パートナー講演

【AP1】

CR-8000 Design ForceとのEDB連携による
Ansysエレクトロニクス解析環境での
電気・熱解析

アンシス・ジャパン株式会社
Lead Application Engineer 前田 剣太郎 様



【AP2】

Sherlock : 信頼性の高い製品を開発するために
必要なフィードバックを提供

アンシス・ジャパン株式会社
Senior Application Engineer 宣場 慎二 様



COVID-19の猛威は、全世界、全産業で、人と人とのリアルな接触到に大幅な制限を強いる困難な状況をもたらしました。企業は、この困難な状況を空白の期間にすることなく、いかに企業活動を維持・躍進させていくのかという重大な課題を突き付けられています。この大きく困難な波を突破できるかどうかは、あらゆる工程を仮想空間化、デジタル化できるかにかかっていると考えています。Ansys のシミュレーション・ソリューションは、このような困難な環境でも、皆様のお役に立てることを信じております。今回のオンラインイベントでは、図研様の製品との連携強化で、効果が期待できる3つの最新シミュレーション・ポートフォリオを紹介させていただきます。

【AP3】

ワイヤハーネス設計に寄り添う、
車両規模ワイヤハーネス電磁界解析ツール
EMA3D Cable

アンシス・ジャパン株式会社
Principal Application Engineer 五十嵐 淳 様



【AP4】

ABLを使用した
ポストレイアウト・シミュレーション・フロー

キーサイト・テクノロジー株式会社
ソリューションエンジニア 中溝 哲士 様



CR-8000 Design Forceに搭載されたABL(ADS Board Link)機能を使用すれば、わずか数ステップでキーサイトの統合シミュレーション環境PathWave ADSにレイアウト情報を引き継ぎ、電磁界解析による伝送線路の特性抽出や、時間軸シミュレーションを実施することができます。このセッションでは、ABLを使用したポストレイアウト・シミュレーション・フローをご紹介しますと共にABLの最新情報も併せてお届けします。

【AP5】

PathWave ADS Memory Designerのご紹介

キーサイト・テクノロジー株式会社
ソリューションエンジニア 中溝 哲士 様



DDRメモリアンタフェースの検証にお困りではありませんか。キーサイトの統合シミュレーション環境PathWave ADSのオプション機能であるMemory Designerを使用すれば、基板製造前でもCR-8000 Design Forceによるレイアウト情報さえあれば、オンロスコープによる実測と同等のシミュレーション波形を得て、JEDEC規格に沿ったPass/Fail判定を行うことができます。このセッションではMemory DesignerによるDDRメモリアンタフェースの検証フローをご紹介します。

【AP6】

PathWave ADS2021 高速デジタル
アプリケーション向け新機能のご紹介

キーサイト・テクノロジー株式会社
ソリューションエンジニア 中溝 哲士 様



キーサイトの統合シミュレーション環境PathWave ADSの最新版であるADS2021ではSerDesやDDRメモリアンタフェースなどの高速デジタルアプリケーション向け機能が大幅に強化されました。このセッションではこれらの機能を簡単にご紹介致します。

【AP7】

図研と取り組む「EDAの設計フロー最適化」
に関するAI技術と今後の展望

ギリア株式会社
取締役 増田 哲朗 様
HE事業部門 SDS部 部長 近田 慎一郎 様



ギリアでは「ヒトとAIの共生環境の実現」を目指し、様々な業種・業態において、お客様の新たなビジネスの可能性を広げる最先端のAI統合プラットフォームをご提供しています。本講演では図研と取り組んでいる「EDAの設計フローの最適化」に関するAI技術と今後の展望についてお話をさせていただきます。また、ギリアで製造業様に向けて、企画・開発を行った最新のAI活用事例についても、一部ご紹介をさせていただきます。

【AP8】

製造業のDXを3Dで実現するための3つのヒント
～エレメカ連携で推進するリモート3Dワーク～

ラティス・テクノロジー株式会社
代表取締役社長 鳥谷 浩志 様



不確実性の高まる現在、変化に柔軟に対応できるようなDXの重要性が高まっている。かつて、日本の製造業を支えた現地現物と図面文化をどうやって、デジタル化の中で実現していけばよいのだろうか。エレメカ連携を実現する3Dデジタルツインが解決策となるだろう。この技術は社員、顧客、会社を守るためのリモートワークにも必須となる。VRや5Gという技術潮流の中で、DXをどう実現していくのかをCR-8000やE3.seriesとXVLとの連携も含め3つのヒントを通して解き明かす。